

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972100246		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地	高知県香南市吉川町古川340番地2		
自己評価作成日	平成30年5月22日	評価結果 市町村受理日	平成30年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は、ごめん奈半利線吉川駅より徒歩10分程の木々に囲まれた小高い閑静な場所にあり、併設施設として障害者支援施設、ケアハウス、デイサービスといった事業所があって、複合施設としての機能性を活かし、様々な職種との連携を図っています。また、母体法人の音楽療法士、栄養士や言語聴覚士による巡回、各委員会での取組みを活かした心身、口腔機能の維持と向上を目指した体調管理を行うとともに、レクリエーションでは、個々に応じた趣味活動が意欲的に行えるよう取り組んでおります。</p> <p>居室は全室個室で、食堂、ホールでは利用者がゆったりとくつろいで過ごせる空間となっております。毎食手作りの食事では、対面式で暖かい雰囲気のあるキッチンで、調理や配膳、後片付け等を利用者も一緒に楽しく行っています。</p> <p>災害対策では、複合施設内での事業継続計画及び年間の消防計画に基づき、定期的に火災、地震、津波、通報訓練等を実施するとともに、風水害への取り組みも行い、災害に備えるよう努めています。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action_kouhyou_detai_1_2017_02_kihontrue&ji_gyosyoCd=3972100246-00&PrefCd=38&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成30年7月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は津波の心配のない高台にあり、障害者支援施設、ケアハウス、デイサービス事業所を併設する複合福祉施設の一画にある。複合福祉施設としての強みを活かし、多職種が連携して複合福祉施設全体の年間計画に沿った事業所の運営や、研修、行事、防災訓練等を実施し、利用者のサービス向上に努めている。</p> <p>事業所では管理者と職員同士のチームワークが良く、新人スタッフも管理者や経験豊富なケアスタッフに相談しやすく、適切なアドバイスが得られ、働きやすい環境にある。このことが、事故がなく安心安全な利用者の方々の暮らしにつながっている。</p> <p>終末期の支援については、事業所での看取りの事例はないが、母体法人の訪問看護や協力医のバックアップ体制も整っており、希望があれば今後取り組んでいく予定としている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	皆に笑顔があり、誰もが立ち寄りやすく、心和める環境を作るため、事業所での目標を設定し、職員は、それに向かって意識を高めるよう、日々利用者に関わりながら理念の共有と実践に取り組んでいる。	「人との関わりとなごみを大切に」という理念を職員間で共有し、理念に沿ったケアの実践につなげている。また、家族や面会者の来訪時にも、誰もが気軽に立ち寄ることができる環境づくりに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域社会の一員として地域の清掃活動に参加し、利用者の地域ボランティアとの交流、地域行事への参加に取り組んでいる。	年4回の地区の清掃活動には管理者と職員が参加し、近隣住民との顔見知りの関係を築いている。ギター演奏やフラダンスのボランティアの来訪や、定期的に利用者へ書道を教えてくれるボランティアとの交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はボランティア制度の登録を行い、地域ボランティアの受入を始めたところである。事業所移転後、まだ目立った活動は行えておらず、地域の住民への認知症の理解等広めていけるよう、活動したいと考えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所運営状況、研修実施等の報告を行い、開かれた事業所運営が行えるよう、行政関係者や地域住民、家族からの助言や指導を得て、サービス向上に努めている。	地区長、家族代表、行政代表の参加で開催し、利用者の状況や行事の報告、外部評価結果の報告等を議題にしているが、事業所運営についての活発な意見交換までには至っていない。議事録は、事業所便りと併せて家族に送付している。	会議のメンバーに地区長だけでなく地区防災組織や消防団、老人クラブ等幅広く地域からの参加を得ることで、地域とのつながりを深めて協力関係を築くとともに、会議の活性化を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や市の集団指導、勉強会を通じて、また、市への訪問や電話などでの情報収集の機会を作り、協力関係が築けるように取り組んでいる。	運営推進会議には市の地域包括支援センター職員と介護保険担当者が交代で出席し、事業所運営についての協力和助言を得ている。市主催のグループホーム連絡会では、事業所のケアサービスの取り組みについて情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの実践について常に職員全員が把握し、理解できるよう、法人内外の研修会に積極的に参加し、実践できるよう取り組んでいる。	職員は、年2回の複合福祉施設全体研修で虐待予防、身体拘束をしないケアについて学習し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。日中玄関は施錠せず、センサーと目視で見守っている。家族にはリスクと対応について説明し、納得を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体上の虐待だけでなく、言葉による虐待も含め、常に高齢者の尊厳を職員には周知し、毎月の委員会や法人内の研修などで学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性が生じた際には、関係者と話し合い活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時や契約時に十分な時間をかけて、利用者、家族に契約内容が納得してもらえる説明を行い、不安や疑問については、了承が得られるまでその都度答えていくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置のほか、家族の面会時や電話でも意見や要望を出しやすい環境作りを心掛け、事業運営に活かせるように努めている。また、複合施設全体で第三者委員も設置しており、家族や利用者が安心して利用できるように配慮している。	家族会は事業所行事に合わせて開催し、2～4名の参加で、参加家族が固定化している。家族だけで話し合う時間も設けているが、要望は上がってこない。管理者は、家族の来訪時には利用者の様子を伝え、要望を聞くように努めている。	家族が参加しやすい行事や日程、時間を検討して、より多くの家族が行事に参加できる工夫により、多くの家族同士が交流し、意見や要望が出てくることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で職員の意見や提案に耳を傾け、健全な事業運営ができるよう話し合いを行っている。また職員からの希望があるときには、個別面談も随時行っている。	職員同士意見を出しやすい雰囲気があり、毎日の申し送り時に小さな気づきやアイデアを報告し合っ、日々のケアに反映させている。管理者は、勤務時間表作成時に職員の希望を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	母体法人全体で職員の苦情や相談の窓口を設け、意見や要望の出しやすい職場環境を作り、離職防止に努めている。また、職員のやりがいや、達成感につながるような能力開発にも取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各資格取得に向けて、母体法人内での勉強会や研修に職員が参加できるようバックアップし、職員の知識向上と育成に取り組んでいる。また、新人職員についても、年間での目標を立て、毎月段階的に指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催される勉強会や研修等に参加し、意見交換の場で得た情報を事業所に持ち帰り、フィードバックすることでサービス向上が図れるように取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事業所の見学時や、入所前の面接の中で、本人や家族から十分時間をとって意見、要望を聞き、良好な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に相談受付を行い、意見や要望を聞く機会を設けている。家族とよく話し合い、耳を傾け、信頼関係を築けるよう常に気を配って、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に訪問したり、面接時に念入りに意見や要望の聞き取りを行っており、必要に応じて連絡調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人との関わりと和みを大切に、共に暮らす仲間として関係を築き、いつも和むことの出来る家族のように安心して暮らせる空間が提供できるよう、職員会や申送時には話し合いを行い、意識付けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>共に利用者を支えていくという協力体制を大切にしながら、家族との面会時や電話、便りなどで利用者の状態を報告し、相談や要望に耳を傾けて、信頼関係の構築に努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>入所前から利用していた馴染みの理髪店や、自宅付近、皆がよく覚えのある地域へのドライブなど、馴染みの関係性の継続に努めている。</p>	<p>家族と行きつけの美容院や買い物に出かけ、帰りに外食を楽しむ利用者や、墓参りに出かける利用者がいる。友人の来訪でおしゃべりを楽しんでいる利用者もあり、馴染みの関係が継続できるよう、職員は支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士が共に仲良く楽しく過ごせるよう、食事やレクリエーションなどの配席にも十分配慮し、日常生活の中で良好な人間関係が保てるように取り組んでいる。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所時の相談受付や、退所後も電話や面会を通じて本人の状況を聞き、他施設入所の相談や再入所の相談などにも応じて、関係の継続に努めている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所申込時や契約時に家族、利用者の意向や希望、趣味などを把握するとともに、それを取り入れながら、日常生活の中で利用者とのコミュニケーションの充実に努め、毎日の暮らしに取り組むよう努めている。</p>	<p>入所時に本人、家族から意向や希望を聞き、ケアプランに反映している。また、日々の暮らしの中で把握したことや、ケアプラン更新時に得た情報は記録し、ケアに反映させている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入所前、事前に本人や家族から生活歴や環境などの綿密な聞き取りを行っている。また、日々の暮らしの中でも、本人の発言や発語に耳を傾け、情報収集に取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族、本人からの聞き取りをもとに、毎日の生活の様子や会話から本人のできること、できないこと、生活ペースやリズムの見極めを利用者一人ひとりについて行いながら、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見を一番大切にするとともに、家族の希望を取り入れ、職員の日々の業務の中での気づき等を話し合い、本人に必要なケアが介護計画の中に反映することが出来るよう努めている。	3ヶ月毎に本人、家族の意向を確認し、担当職員が行ったアセスメントをもとに計画作成者がケアプランを作成し、職員カンファレンスで検討して、決定している。利用者の状況変化に合わせ、現状に即したケアプランへの見直しもその都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の生活状況が分かるように、個別記録の作成に努めている。利用者の状態、変化等を職員間で共有しながら、その後につなげるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護師、言語療法士、作業療法士、管理栄養士等、母体法人内での連携を図り、利用者の体調や状況に即した対応ができるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加や、地域ボランティアの活用により、地域との連携や交流を深められるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療がある。協力医との連携を密にし、必要に応じて同行受診の対応を行っている。また、協力医の指示のもと、他の医療機関への受診の支援も行い、適切な医療が受けられるよう努めている。	本人、家族の了解を得て、入所時に全員が協力医にかかりつけ医を変更し、月2回の往診で健康管理をしている。他医療機関受診は原則家族対応で、書面で情報提供をし、結果は家族から聞いて個人記録に記入し、情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、月2回の定期訪問看護以外でも健康状態で気になるときは随時連絡、相談を行っている。必要に応じて、看護師の訪問、主治医の往診対応を受けるとともに、助言や指導を得ながら協力体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院期間中は、医療相談室と情報交換を密に行い、早期退院ができるよう調整を行っている。他事業所へ足を運んだり、電話で事業所の状況を相談するなどの関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りについては指針を定めており、契約時に家族に十分な説明を行っている。家族の意向は、利用者の状態を報告する都度、話し合いを持って確認している。職員は、研修などで看取り支援の知識を身に付けるように努めている。	入所時に看取りの指針を説明し、意向を確認している。重度化の際には改めて説明し、意向の再確認をしている。事業所で看取りの事例はないが、母体法人の訪問看護や協力医のバックアップ体制も整っており、希望があれば取り組むこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内外の研修受講に加え、2年に1回、全職員が救急救命講習を受講している。また、急変時や事故発生時は各マニュアルに基づいた対応が行えるように、マニュアル内容の周知をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得ながら、定期的に地震、津波、火災、通報等の訓練を実施し、災害時に備え、避難誘導がスムーズに行えるよう複合施設全体で取り組んでいる。	防災訓練は、複合福祉施設全体で火災想定で年2回、地震津波想定で年3回、緊急連絡訓練を年2回実施し、複合福祉施設間相互の支援体制を構築している。非常用食料品は、複合福祉施設全体の利用者、職員分を3日以上備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会や研修会などを通じて、職員は利用者の尊厳の重視やプライバシーの保護について学び、声かけや対応時には、注意して見直しを行っている。	職員は法人内外の接遇、権利擁護の研修に参加し、職員間で確認し合って、プライバシーを損ねない声掛けや対応に努めている。特に排泄介助時の声掛けや対応に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通の難しい利用者もいるが、日頃の観察や些細な会話の中から、個人の希望や思いを把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズム、ペースを尊重し、職員間で統一したケアが行えるよう、随時話し合いを行っている。個々に合った生活ができるように、本人、家族の意見、要望に沿って支援していくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の個性を大切に、季節感のある清潔な身だしなみを心がけ、個々におしゃれが楽しめるよう取り組んでいる。本人、家族から本人の好みを聞いて、把握するように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力を活かし、役割として食材運びや調理、盛り付け、後片付けなどの作業を協働で行いながら、楽しい食事の時間を共有している。	献立は母体法人の管理栄養士が作成し、利用者の希望や行事に合わせて一部変更して、事業所のキッチンで調理している。利用者も野菜の皮剥ぎなど、椅子に座ってできることを一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態を把握するとともに、嗜好に配慮した食事や、水分が摂れるよう努めている。体重測定も行い、栄養状態や摂取状態に合わせて必要に応じて補食品での対応を行い、状態の観察と対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要に応じて介護計画にも反映させて、個々のニーズに応じたケアを提供している。希望があれば歯科往診の調整も行っている。義歯の管理や、歯ブラシ、コップなどについても消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、トイレ誘導を行うようにしている。本人の状態に合わせた排泄用品を使用し、できる部分は状態維持できるよう支援している。	夜間ポータブルトイレを使用する利用者も、日中はトイレで排泄できるよう個々の排泄パターンに合わせて支援している。排泄の失敗が減った利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で個々の排泄状況の把握に努め、できる限り自然な排便習慣がつくよう、運動や水分補給、腹部マッサージなどを行っている。また、食事摂取量などの変化にも注意して、必要に応じて看護師、主治医と連携を図り、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り利用者の希望に沿った時間帯に入浴できるよう、時間調整を行っている。また、必要などときには、時間を決めず随時対応している。	基本は午前中の中の入浴にしているが利用者の希望により、午後や夕食前のなど希望に沿った対応をしている。入浴を希望しない利用者にも声掛けや対応を工夫して、全員週3回は入浴するように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとり、自分の時間を自由にリラックスして過ごせるように努めている。夜間不眠がちな利用者には、日中の活動性を高め、安眠できるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、服薬についての基礎知識の向上に努めると共に、マニュアルの把握、利用者個々の服薬状況、副作用が分かるようファイルを作り、職員全員が確認して、把握できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や生活習慣、興味のあることなど、本人の持てる力を見極めるとともに、可能な活動への参加や、レクリエーション、軽作業などをしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所周辺の散歩や、地域の公園へ出かけたり、車を利用しての買い物やドライブなどを行い、気分転換を図るようにしているが、季節などの関係で動きやすい気候の時に外かけることが多い。家族とも好きなきに外出できている。買い物や、墓参りなどにも出かけている。	年2～3回は、桂浜や西島園芸団地等へ家族と一緒に掛けている。日々の外出は買い物やドライブや事業所近くの公園の散歩を楽しんでいる。家族の支援で買い物や美容院に出かける利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があるときに買い物に同行し、本人が好きなものを選んだり、支払えるよう支援をしている。買い物をする場合には、事前に家族に確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が直接電話を掛けることは少ないが、希望があれば、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。絵はがきなどのやり取りを家族としている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所と食堂ホールは、明るく静かな場所に位置しており、日当たりも良い。利用者はもちろん、来訪者にも暖かく、居心地の良い空間であるよう、季節に合わせた装飾品を飾るなどして、創意工夫をしている。	事業所全体がシンプルで分かりやすい構造になっており、明るい食堂兼居間にはテーブルとソファが置かれ、対面式のキッチンから声掛けや見守りをしながら調理ができる家庭的な雰囲気の中で、利用者は居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースだけでなく、玄関や居室等も、利用者が思い思いに、自由に気の合う仲間と過ごしてもらえるよう、家具の配置にも配慮している。また、利用者の状態に合わせ、家族とも相談しながら模様替えも行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から使い慣れたものを持ち込むようお願いしている。家具等の持ち込みが難しい利用者には、使い馴れた道具や、身の回りの小物や写真、趣味の物などで安心感が得られるよう、家族の協力を得ながら、その人に合わせた工夫をしている。	居室にはハンガーラックに選びやすいようにかけた洋服や、自宅から持参したテレビやタンス、写真が置かれ、利用者一人ひとりの好みに合わせて、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の持てる力を引き出しながら、心身機能の維持向上ができるよう声掛けと状態観察を行うとともに、本人に合った福祉用具をその都度導入したり、居室内やホールで安全な環境を作ることができるよう、日々関わりを持つように努めている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない